

1. 水害被害額（全国）

465,574百万円

〔内 訳〕

・ 一般資産等被害額	236,168 百万円（構成比 50.7%）
・ 公共土木施設被害額	220,079 百万円（構成比 47.3%）
・ 公益事業等被害額	9,327 百万円（構成比 2.0%）

注1) 「一般資産等被害」とは、建物、家庭用品、事業所資産、農作物等に係る物的被害及び事業所営業停止損失等である。

2) 「公共土木施設被害」とは、河川、海岸、砂防設備、道路、港湾、下水道、公園等の施設に係る物的被害である。

3) 「公益事業等被害」とは、鉄道事業、水道事業、電力会社、電気通信事業者等に係る物的被害及び営業停止損失である。

4) 被害額には、人的損失、交通機関のストップなどによる波及被害、被災地の生産減少による他地域への影響等に係るものは含まれていない。

2. 水害被害の概要（全国）

(1) 死傷者数 291名

（〔内訳〕 ○死者 43名 ○行方不明者 1名 ○負傷者 247名）

(2) 被災建物棟数 36,524棟

〔内訳〕 ○全壊・流失 1,295棟 ○半壊 3,801棟
○床上浸水 9,881棟 ○床下浸水 21,547棟

(3) 浸水面積 12,632ha

（〔内訳〕 ○宅地・その他 2,904ha ○農地 9,728ha）

注) 死傷者数は、消防庁調べによる（この資料において同じ。）。

3. 都道府県別水害被害額等

(単位：百万円・名)

	都道府県名	水 害 被害額	死傷者数		都道府県名	水 害 被害額	死傷者数
1	宮崎県	176,955	39	25	福島県	2,484	2
2	東京都	43,756	0	26	長野県	2,471	4
3	山口県	35,752	17	27	千葉県	2,017	2
4	新潟県	26,187	14	28	鳥取県	1,728	1
5	鹿児島県	21,626	23	29	香川県	1,667	2
6	広島県	20,943	15	30	群馬県	1,602	3
7	熊本県	16,900	7	31	大分県	1,592	22
8	高知県	16,104	4	32	岡山県	1,437	17
9	愛媛県	10,024	4	33	和歌山県	1,336	4
10	徳島県	8,567	5	34	宮城県	1,115	0
11	三重県	6,808	1	35	茨城県	1,002	1
12	沖縄県	6,592	28	36	福井県	1,002	1
13	静岡県	6,443	8	37	大阪府	925	2
14	島根県	5,382	1	38	岩手県	890	0
15	青森県	5,157	0	39	奈良県	742	0
16	石川県	5,090	5	40	神奈川県	488	4
17	埼玉県	4,741	16	41	兵庫県	461	3
18	北海道	4,295	0	42	栃木県	395	1
19	富山県	4,045	2	43	愛知県	315	0
20	長崎県	3,882	7	44	佐賀県	246	0
21	岐阜県	3,599	0	45	京都府	184	0
22	秋田県	2,948	1	46	山梨県	155	0
23	福岡県	2,887	23	47	滋賀県	82	0
24	山形県	2,555	2		合 計	465,574	291

注) 1. 都道府県名は、被害額の大きさの順に並べている。

2. 宮崎県の水害被害額が、全国合計値の約4割(38.0%)を占めている。

4. 水害被害額の大きな10市区町村

(単位：百万円)

	市区町村名	都 県 名	水害被害額
1	宮崎市	宮崎県	42,012
2	高岡町	宮崎県	26,787
3	杉並区	東京都	18,304
4	延岡市	宮崎県	16,531
5	岩国市	山口県	15,319
6	西都市	宮崎県	12,300
7	椎葉村	宮崎県	11,902
8	中野区	東京都	9,817
9	広島市	広島県	8,769
10	北方町	宮崎県	8,577

注) 市区町村名は平成17年時点のものである。なお、平成18年に高岡町は宮崎市に、北方町は延岡市に編入合併している。

5. 台風第14号に伴う豪雨による水害被害額等(全国)

水 害 被 害 額	被 害 の 概 要
<p>335,120 百万円</p> <p>〔内 訳〕</p> <p>一般資産等被害額 198,921 百万円</p> <p>公共土木施設被害額 127,984 百万円</p> <p>公益事業等被害額 8,215 百万円</p>	<p>○死傷者数 206 名 ○被災建物棟数 24,528 棟</p> <p>○浸水面積 10,036ha</p> <p>【参 考】</p> <p>台風第14号は、9月6日に長崎県諫早市付近に上陸した後、九州地方北部を通過して山陰沖に抜け、7日には北海道に再上陸した。この台風は、勢力が強く比較的ゆっくりとした速度に進んだため、長時間にわたって暴風、高波、大雨が続き、九州、中国、四国と北海道地方の61地点でこれまでの日雨量の記録を更新した。このため、大淀川(おおよどがわ)や五ヶ瀬川(ごかせがわ)等の大河川を始めとする多くの河川では氾濫危険水位を長時間にわたって超過し、危険な状態が続くとともに、大規模な越水や内水による被害が発生した。また、九州地方の中山間地域を始めとした各地で約300件の土砂被害が発生した。</p> <p>また、9月4日夕方から5日未明にかけて、台風第14号の接近に伴い前線が活発化し、東京都や埼玉県で1時間に100ミリを越える猛烈な雨が降った。このため、神田川等の越水や内水により、中野区及び杉並区を始めとして東京都、埼玉県等で浸水被害が発生した。</p>